

海・川・湖その世界とのふれあい

# マリンスノー

## MARINE SNOW

No. **20**  
2000.3.10



### ●目次

「写真で見る 水族館の生物たち」展…1	ちよこっと裏話……………4
「いるか館」の新入イルカ…3	催し物……………5
～動物達を楽しむために～ 「まずは簡単・確実に」 ……………3	浅虫の海の生物たち(20) ……………6
トピックス……………4	浅虫水族館日誌抄録…………6
	動物紳士録……………7



AQUARIUM  
ASAMUSHI

# 「写真で見る 水族館の生物たち」展

神尾 俊

この写真展は、2000年ニューイヤースペシャルの一環として企画したものです。水族館で飼育・展示している生物を主体とした写真展として一般から公募しました。平成11年9月頃から11月末までを募集期間とし、12月初旬に審査、1月はじめに展示開始、表彰式と長い期間となりました。

応募者は、小学生から高校生そしてお年寄りまで、また家族全員、写真サークル部員など幅広い層にわたり、プロ顔負けの「度アップ」で迫力ある作品から、館内が暗いため露出不足になり、よい構図なのに暗くなってしまった作品、シャッターチャンスを見逃さずにかわいい様子を捉えた写真など、見て楽しくおもしろい作品がたくさん寄せられました。

審査は、青森市在住で、青森の美しい自然、祭りなどを撮影し続けている写真家の、いちのへ義孝さんをお願いしました。応募者数101名、応募総数262点の中からグランプリ1点、準グランプリ2点、優秀作品5点、水族館賞12点、という内容で選んでいただきました。応募者全員に参加賞として入館券を進呈し、上位8点には賞状と副賞を贈呈しました。



写真審査中

今回の作品の評価として、いちのへさんより次のようなコメントをいただきましたので紹介します。

「全体に暗く撮りづらい環境の中でよい作品がたくさんありました。水族館なので魚のかわいらしさ、愛らしさ、鮮やかさみたいなところをとらえてもらおうと良いでしょう。そういった点は上位に入賞された8点の作品には良く出ています。アマチュアですから自分の視覚・見方で撮ることが一番良く、他の人が撮っていない撮り方であろうと思われるような見方をして撮ったほうが良いと思います。もっと違った表現方法として、たとえばエイのお腹だけの部分とか、意外性を出すことが必要です。撮影の基本は、動物でも植物でもフラッシュを発光させないで撮った方がいいのですが、暗いのでしょうがない部分もあるでしょう。一つの方法として高感度フィルムを使うことをお勧めします。選考においては、写真写りの出来、不出来だけで判断する訳でもないのです、それ以外のもう一工夫が必要だと思います。魚を浮き上げらせること、かわいらしさを出すこと、そして見る人に印象が強く残るような迫力ある作品を心がけて撮ってあげれば良いでしょう」ということでした。いかがでしょうか？



グランプリ 題名「エイ」今井 裕美さん（青森市）

● 優秀作品



準グランプリ 「ヒメヤマノカミ」 島谷京子さん (野辺地町)



準グランプリ 「ゆらりと泳ぐ」 須藤拓也さん (青森市)



優秀作品賞 「ハナミノカサゴ」 前川原 忠さん



優秀作品賞 「シルバーアロワナ」 倉光浩一さん

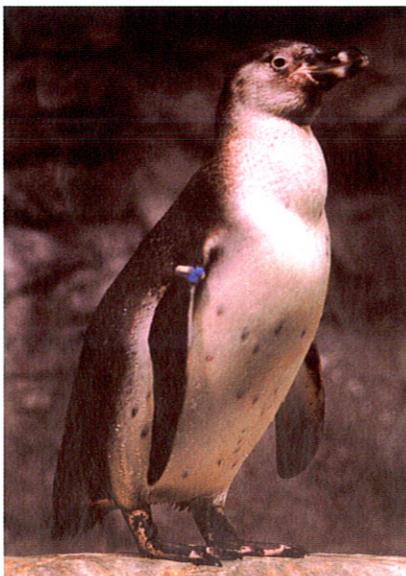


優秀作品賞 「浮上」 松島久三さん



優秀作品賞 「アカウミガメ」 赤田 季哉さん

優秀作品賞  
「フンボルトペンギン」 當麻 絢子さん



写真展は、撮影する側・鑑賞する側ともに生物の生態、かわいらしさ、愛らしさ、鮮やかさなど、新しい発見ができる良い機会だと思います。写真を通じての生物との係わり合いは、私たちの生物への関心を深め、大いに勉強させてくれることでしょう。

今回、写真展を開催するにあたってご協力していただいた皆様、大変ありがとうございました。今後も写真展は継続していく予定です。どうぞ期待下さい。

## 「いるか館」の新入イルカ

1999年3月18日、和歌山県東牟婁郡太地町より、約24時間かけて、2頭のバンドウイルカ(メス)がやってきました。この新入イルカは、搬入当時No.22・No.23と番号で呼ばれていましたが、同年6月次のように名前がつけられました。No.22→ピッピー・No.23→ブロン

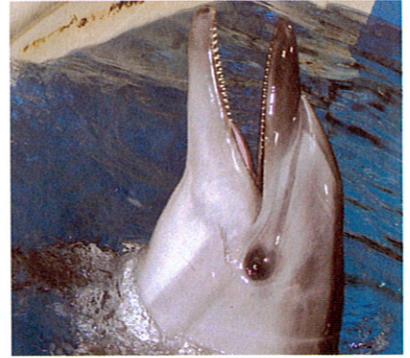
ピッピーとブロンは「いるか館」で飼育していますが、なかなか個性的で係員をこまらせることもしばしばです。そこで、この2頭について簡単に紹介しましょう。まずは、ピッピーですが体の色が白っぽく体型はぼっさりしていて、一見おとなしそうに見えるのですが、実際は大変気が強く、気に入らない事があると、すぐブロンを追いかけ回します。半面、警戒心が強く、係員や餌など、始めて見るものすべてに疑ってかかるのです。それもイルカとコミュニケーションをとりなが



ピッピー

ら訓練していくうちに、今では何事もなかったかのように慣れてきました。

ブロンは、気は小さいが好奇心が強く何にでも興味を持ちます。まだ水族館にくる前、太地町で蓄養中のことです。イケスを固定しているロープに興味を持ち、遊んでいるうちにロ



ブロン

ープが首にからまってしまいました。そのとき首に1本の首輪のような傷をつけてしまったのです。その時の傷跡が今でも薄く残っています。「白くぼっさりしているのがピッピーちゃん、首輪のような傷跡があるのはブロンちゃん」と簡単に見分けることができます。

現在、いるか館では、2頭ともショーデビューに向けてがんばっています。また、「イルカの食事タイム」の時は、訓練風景も見られますのでピッピー、ブロンの成長ぶりを見にぜひ遊びに来て下さい。

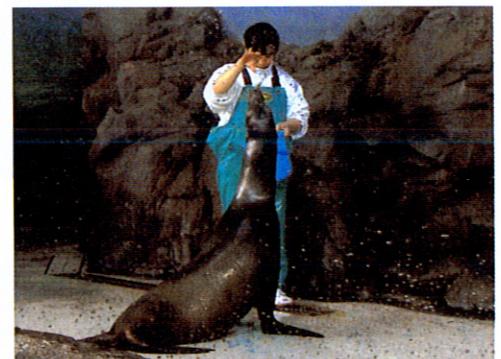
## ～動物達を楽しむために～ 「まずは簡単・確実に」

動物達が見せてくれる「面白い行動」や色々な「姿」は、品切れになることはありません。これは「動物を観察して、その行動の意味を考える」といった楽しみにも、終わりが無いと言うことです。ただし、動物達は「人間を楽しませてあげよう」などと思ってはいないので、テレビや映画を楽しむような具合にはいきません。本当に楽しみたいのなら、「じっくり観察する努力と忍耐」それに「たっぷりな時間」が必要ですが、まず手始めに簡単・確実に楽しめる方法から試してみましょう。

「餌」は動物が生きるために必要不可欠ですが、飼育する側にとってはさらに別な意味があります。飼育係は餌を与える時に「食欲や元気は有るか?」軽く運動をさせては「運動機能の異常は無いか?」と動物達の健康状態をチェックしているのです。さて、海獣館で、その光景を見てみると……。アシカ君の運動は、さすがに見事なものです。よ〜く見てみるとそれぞれ得意技が違ようです。隣のプールでは、ほのぼのした雰囲気が人気のアザラシ君もそれなりにガンバッてるみたいです。そのまた隣のペンギンプールでは、餌ともなると、

他を蹴落としても一番に食べようとする者、横取り上手な奴、他の邪魔ばかりする奴、こんな連中ですからケンカが始まるのも日常茶飯事。さて今日は、どんな必殺技が飛び出すのでしょうか。

これらの食事風景は、いずれも野生とは異なりますが、動物達のもつ色々な能力や個性などを感



アシカ君 食事中

ただけると思います。海獣館では、午前と午後に集中して給餌を行いますので、この時間帯を狙うと、より効率的に観察できるでしょう。

《海獣館ゴールデンタイム》①午前9時15分ごろ～10時ごろまでの時間帯②午後2時15分ごろ～3時ごろまでの時間帯アザラシ・ペンギン・アシカの順番で給餌します。

(注:動物の体調や作業状況によっては、時刻や順番が変わる場合がありますので、①・②共に一応の目安とお考え下さい)

## ●トピックス

### 空を飛んだペンギン

1999年もフンボルトペンギンのヒナが、ふ化しました。これで水族館生まれのペンギンは16羽となり、展示室は22羽のフンボルトペンギンと3羽のイワトビペンギンで大変にぎやかになりました。展示生物が繁殖することは、飼育係としてうれしいのですが、ここで問題が生じました。これから生まれてくるペンギンが、同じ両親から生まれた子供、つまり兄または姉とペアをつくる可能性が出てきたのです。人間も近親間の結婚が認められないように、近縁でのペアリングは好ましくありません。そこで、兄弟の多いペンギンをよその水族館や動物園へ移動す

ることにしました。新たにオープンすることになった横浜動物園へ移動することになりました。1999年4月1日にオス2羽、メス2羽のフンボルトペンギンが1羽ずつ木箱に収容され、青森空港から飛び立ちました。



### 「活彩あおもり 大祭典'99」に出展

平成11年11月26日～28日までの3日間、東京ドームで「活彩あおもり大祭典'99」が開催され、その中に当館でも（浅虫水族館ミニ・タッチコーナーとして）出展しました。

300ℓ用ダイライト水槽2台に、海水を半分はり、それぞれ簡易ろ過器を取り付けました。生物は、ヒトデ・イトマキヒトデ・ホタテガイ・ナマコ・ホヤ・ムラサキウニ・バフンウニ・アワビ・サザエ、そしてクロダイの稚魚などでお客さんがどれでも直接手にとって触れられるように用意しました。

開場とともに水槽の周りには、家族連れや婦人グループなどの人垣がきれることなく、やはり子供たちには生きた海の生物に触れることが初めてらしく、ホタテガイの泳ぎ方に感激していました。中でもナマコは、はじめはこわごわでしたが、慣れてくると積極的に手にとって夢中で遊ぶようになり、なかなか好評でした。



## ちょこっと裏話

### 胸いっぱい！ 忘れ物いっぱい！

こんにちは、チケット売り場・インフォメーションを担当させていただいている一同より、皆様に仕事の一部を紹介させていただきます。私達は、水族館の中で最初にお客様と直接コミュニケーションがとれる所にいます。今日の天気の話、家族の話、旅行の話、前回来たときの話、今観てきた感想などお客様が楽しく話されていきます。私たちもそんな話を聞いてうれしくなり仕事に力が入ります。そんな感極まるお客様が多い中で、同じく比例して多いことがあります。それは忘れ物です。私達は、いつ、どこで、

どんな特徴の忘れ物かを確認し大切に保管しています。小さな物でも気軽に声をかけて下さい。



電話での問い合わせも大丈夫です。お客様の持ち物も、水族館での楽しい思い出も忘れないようお願い申し上げます。これからも、お客様の楽しい声を聞けるようにがんばりたいと思います。

## ●催し物

# パネル展「干潟へゆこう」

ゴールデン・ウィークから夏休み終了までの期間に、パネル特別展「干潟へゆこう」を開催しました。これは、WWF（財）世界自然保護基金日本委員会が、失われつつある干潟の保護を目的に製作したパネルを中心に、あわせて県内の代表的な干潟と、そこに生息するさまざまな生き物たちを写真パネルで紹介したものです。

干潟にはたくさんの魚や鳥がエサとなる生き物を求めて、また繁殖地、休息地として集まってきます。健全で豊かな干潟はわたしたちにも多くの恵みをもたらしてくれます。しかし、現在残っている干潟のほとんどが埋め立てや、環境汚染の影

響で危機にひんしています。

県内にも、むつ市の芦崎湾と平内町の浅所海岸に大きな干潟があります。どちらの干潟も春には潮干狩りの

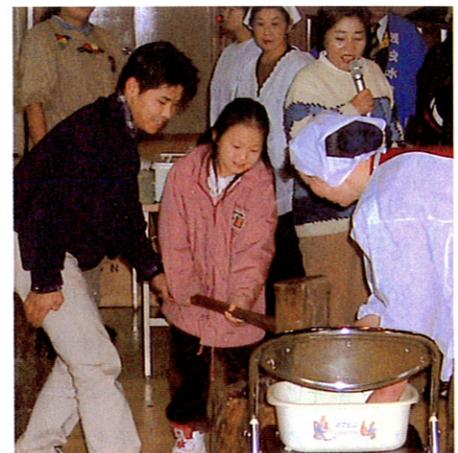
人々でにぎわい、また白鳥などの渡り鳥たちの飛来地になっています。今後も、この貴重な自然を守っていかなければと思います。



# 餅つき大会

平成12年1月1日、ミレニアムを記念するこの日に浅虫水族館では餅つき大会を開催しました。2000年問題で元旦のイベント中止の話もありましたが、元旦にやることに意味があるということで、今回の実施となりました。当日は2000年問題が心配されるなか予想以上のお客様に来館していただきましたが、最近家庭で見られなくなった臼と杵による餅つきを体験してみたい子供たちにもたくさん参加していただいて、お正月らしい雰囲気を盛り上げることができました。冬期間は休館して

いると思われがちな浅虫水族館ですが、お正月のイベントとして定着しつつある「ホタテのヨットレース」をはじめ、今後もこの季節ならではのイベントを企画していきたいと思



をお待ちしています。また、この図画展を通じて多くの子供たちが海や魚・動物たちに関心を持っていただくことを願っています。

# 第14回浅虫水族館図画展

「海や川にすむ生物および水族館に関すること」をテーマに、平成11年10月24日～11月30日まで第14回浅虫水族館図画展を開催しました。今回の応募総数は、おかげさまで前回は大きく上回る4,134点にもなりなした。また、応募いただいた幼稚園・保育園、小学校も198園校で過去最高となりました。この作品の中から、134点が入選となり、その中の6点が優秀賞に輝きました。おしくも選外となった作品もあと一歩という力作ぞろいでした。ご指導いただいた先生方をはじめ多くの関係者に深く感謝いたします。

平成12年も、たくさんの楽しくてすばらしい作品



青森県知事賞 「かわいいなペンギンさん」  
天間みどり保育園 4歳 天間 梢ちゃん

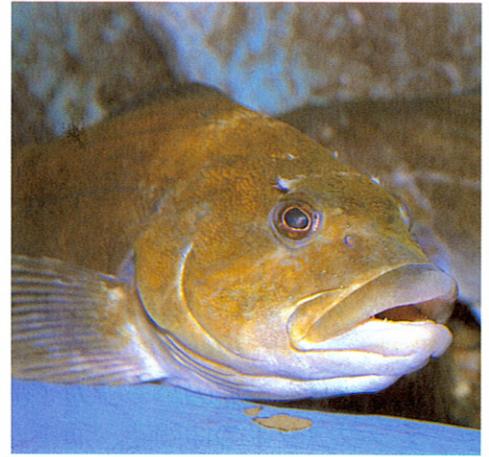
## (20) アイナメ

*Hexagrammos otakii*

日本各地の沿岸の岩礁域や砂礫底に生息する底生魚で、県内の人には「アブラメ」と呼んだほうがなじみがあると思います。肉質が白身で脂ものり、食べてとてもおいしい魚であるため、釣りの対象魚として大変人気があります。また貪欲な性格で、餌と見るや何にでも食いついていくため、最近ではルアー釣りが盛んにおこなわれています。

秋も深まった頃、地先の岩場の海に潜ると、わずか水深1m足らずの岩陰に身を寄せるアイナメを見ることができます。これは、産卵期が近づき浅場に移動して集まってきたもので、雄は橙黄色の婚姻色となり縄張りを形成し、雌は卵で腹を膨らませています。釣り人はまさか足元に型の良いアイナメがいるとも知らず、沖合いのポイントに仕掛けを投げ込んでいます。「灯台下暗し」とはよく言ったものです。

産卵期は10月から1月頃まで続き、雄は複数の雌に卵を産ませます。この時、産み出された



卵は雌によってそれぞれ色が異なり、赤っぽいもの、緑色のもの、紫色のものなどとなかなかカラフルです。卵は粘着性があり海藻の根元や岩にくっついてひとつの卵塊になります。雄はこの卵がふ化するまで保護し続けます。

アイナメと生息場所や姿形がよく似た魚にクジメがいます。両者の見分け方は、アイナメは尾ビレの後縁が直線なのに対し、クジメは丸みを帯びること、アイナメは側線が5本であるのに対しクジメは1本であることで区別できます。

## 浅虫水族館日誌抄録

1999年

- 3.14 フンボルトペンギン1羽(孵化)  
油壺マリパークよりタカアシガニ搬入
- 18 和歌山県太地よりイルカ搬入(2頭)
- 28 NHK青森「海獣館の裏方」取材
- 29 横浜・八景島よりナンヨウハギ6種330点搬入
- 4. 1 横浜市立横浜動物園に  
フンボルトペンギン(4羽)搬出
- 23 RABテレビ「活彩あおもり」取材  
パネル特別展「干潟へ行こう」開催
- 6. 5 RABラジオ「サタデー夢ラジオ」生放送  
「夜の水族館」開催(12日・19日)
- 6. 8 ATVテレビ「クリオネ」取材
- 7. 4 碧南水族館よりオオウミシダ他  
5種類 60点搬入
- 9 ウミガメ移動
- 14 RABテレビ「活彩あおもり」取材
- 15 スルメイカ展示(～9.11)
- 18 イワトビペンギン館外PR活動(8/8)(9/15)
- 7.23 サマーフェスティバル

- 7.25 河北新報「女性飼育員」取材
- 25 イルカ教室開催(8/22)
- 31 「サマースクール」開催
- 8.28 「奥津軽メダカサミット」にメダカの仲間  
たち4種を展示
- 30 RABテレビ「湾内迷入クジラについて」  
取材
- 10. 2 「夜の水族館」開催(10/9・10/16)
- 23 図画展表彰式・展示開始  
動物愛護フェスティバル
- 11. 2 NTV「おもいきりテレビ」マダラ取材  
ワシントン条約による緊急保護動物とし  
てホシガメ30個体収容
- 11.26 東京ドーム「活彩あおもり大祭典'99」  
ミニ・タッチコーナーを出展(～28)
- 2000年
- 1. 1 ニューイヤースペシャル  
○もちつき大会開催 ○写真展  
○「生物名当クイズ」
- 1. 2 ほたてヨットレース(3.9.10日)

## 動物紳士録

### プテラポゴン・カウデルニイ

*Pterapogon kauderni*

インドネシアのバングイ諸島周辺に分布するテンジクダイの仲間で、海岸近くの藻場に群れを作って生息しています。水槽の中でもあまり泳ぎ回らず群れになり静止していることが多いので、じっくり観察することができます。産まれた卵をふ化するまで雄が口の中で保育する習性があり、また稚魚が親離れするまでウニ類のガンガゼと共生して敵から身を守る父性愛の強い魚です。



### ハタタテハゼ

*Nemateleotris magnifica*

伊豆諸島以南、インド・太平洋の広い範囲に分布し、水深6m以深のサンゴ礁のエッジや外縁と砂地の境界に生息しています。サンゴ片の下や砂地の穴を巣穴とし、その付近をホバーリングしています。危険を察知すると素早く巣穴に逃げ込みます。成長すると体長は約7cmで、単独かペアでいることが多いようです。ピンと立てた背ビレがとても優雅で、水槽を華やかにしてくれます。

### ネクチクラゲの仲間

*Catostylus sp.*

このネクチクラゲは通称“カラーゼリー”とも呼ばれ、近頃では一般の家庭でも飼育されるようになりました。もともとは透明な寒天質の体ですが、体の中に共生藻類（きょうせいそうるい）をもっているため、ブルー・ワインレッドなどさまざまな色に見えます。

熱帯の海域に分布し、小さなプランクトンを食べています。



### 表紙説明 センネンダイ

ミレニアムを祝って、2000年正月から特別展示していますが、千年鯛（せんねんだい）の名前の由来はよく分かりません。南日本以南のサンゴ礁に広く分布しているフエダイの仲間で、稚魚のうち3本の赤褐色の帯が鮮やかです。

マリンスノー No.20

2000年3月発行

(財)青森県企業公社

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

☎017-752-3377